

先人からの贈り物—豊川用水

—愛知県豊橋市—

小 池 義 夫

1. はじめに

人間にとって水は、生きるための生命の水ばかりでなく、ものを作る生産の水として、また儀式にも水を利用してきた。いうなれば水は、すべての根源であり、水が歴史を創り、文化を築き上げてきたといえる。私たちの生活に欠かすことのできない水を、1日たりとも休むことなく送り続けている豊川用水が完成したのは、今から49年前の1968（昭和43）年のことである。

2. 夢の用水構想

豊川用水（表紙写真，図-1）建設の発端は1921（大正10）年に遡る。

1921年、鳳来寺山付近の峡谷に大規模な貯水池を造り、渥美半島の先端まで水を引くことができれば、東三河地域の水不足が解消できるという壮大な構想を考えついた男がいた。それは渥美郡高松村（現在の田原市高松町）出身の県会議員（後の豊橋市長）近藤寿市郎で、東南アジア視察の際にジャワ島で見たオランダの農業水利事業からヒントを得て、帰国するとすぐに、この構想を国費で実行するようにと愛知県知事と県議会に働きかけた。ところが大規模な計画であったので、「理想としては至極結構なるものの、討議する問題ではない」と一笑に付されてしまった。ところが誰もが夢物語だと決め込んだ、この構想にただ一人共鳴した人物がいた。それは当時、県の耕地課長を務めていた横田利喜一で、彼は近藤と組んで調査を行い、農林省に対して国営事業として施工するよう陳情した。だが、その結果は虚しく終わり、大正期にこの構想が日の目を見ることはなかった。

豊川用水の基盤となる、この構想が多くの人に着目されたのは、1927（昭和2）年であった。そのきっかけとなったのが、その年の4月、農林省農務局長が各地方長官（県知事）に宛てた大規模開墾計画に関する通達文書で、その内容を要約すると「窮迫する農村を救援するため、農林省は緊急対策として国営にて大規模な開墾をする計画を樹立した。もし1団地500町歩以上の集団の開墾見込地があり、この事業に対する地元の気運がある場合は申し出よ」というものであった。この通達を受けた愛知県は、近藤らの計画を取り



(出典：(独) 水資源機構中部支社ホームページ)

図-1 豊川用水概要

上げ、さっそく申請した。その結果、同年 10 月には農林省の技師、可知貫一を班長とする調査班が派遣され、1930（昭和 5）年に、開墾面積 5,700 町歩、事業費 1,700 万円の「愛知県渥美八名二郡大規模開墾土地利用計画書」が発表されたのである。これが今日の豊川用水事業の始まりである。

3. 豊川用水—水の旅

(1) **水の産声** 宇連(うれ)ダムから20分ほど上流へと車を走らせると、過去から抜け出たような民家がひっそりと建っている。豊川用水の源流は、そこからさらに諏訪神社の分社まで車で行き、あとは徒歩で水の流れに沿って上っていかなければならない。岩を登り、雑木の中を歩くのは苦勞する。しかし小1時間ほどして耳にした水の産声は、心地よい音色で静寂の中に響きわたり、無垢な時の流れを与えてくれる。

(2) 導く 宇連ダムから放流された水は、宇連川の自流水と混じり合い、南設楽郡鳳来町の大野に設けられた、大野頭首工で豊川用水路に導かれる。宇連ダムから、ここまでは宇連川を自然流下してくれるのだから、人間が造ったアクア・ロードの始まりは、この大野頭首工からということになる。

(3) 補う 必要な時に、必要な量だけ雨が降ればいいのだが、残念ながら今の科学では雨をコントロールすることはできない。また水を使う側も1年を通じ

て平均的に使えば問題はないのだが、水の需要は春から夏に増大する。そうになると宇連川水系の水だけでは足りなくなり、どうしてもほかの川からもらい水をしなくてはならない。それが天竜川水系からの流域変更であり、佐久間ダムからの導水である。流域変更に関しては大入川の水を振草川に引き込み、ブレンドされた水が宇連ダムに導水される。

(4) 分ける 大野頭首工で導かれた水は、6.3 km の大野導水路を通して、東西分木工で東部幹線水路(写真-1)と西部幹線水路に分けられる。大野頭首工を始点とすると、取水された水が東西分木工まで流れてくる時間は水量にもよるが、おおよそ 30 分といったところだろう。

(5) 水と人との交差点 見え隠れする東部幹線水路に沿って旅を続けていくと、水路は東名高速道路の下をくぐり、嵩山で姫街道と交差している。姫街道は、江戸へ向かうお姫様の一行が取り調べの厳しい新居の関所を迂回するため、御油の宿場からいったん東海道をはずれ、本坂峠を越え、再び見附の宿場で東海道へ戻るルートを利用したことから、そう呼ばれるようになった。旅は気ままだいいということで、葦毛湿原で一休みしたあと、多米峠を越えて湖西市に向かうことにした。というのも豊川用水は東三河だけでなく、湖西市にも農業用水と工業用水を供給しているからだ。そして、二川サイホンの出口から再び水路に沿って表浜街道を走ることにした。

(6) 流す 幹線水路について説明すると、東部は 75.7 km、西部は 36.0 km、あわせて 111.7 km にもおよび、その内の約 41%が開水路で、約 29%がトンネル、約 25%がサイホンとなっている。80 カ所あるサイホンの中で最も規模が大きいのが国道一号線や東海道新幹線をくぐる二川サイホンで、その長さは 2,775 m で、直径は 3 m もある。また、幹線水路には 44 カ所のチェックゲート(水位調節堰)があり、流量の変化に対応し、一定の水位が保てるようになっている。さらに水が水路から溢れないように余水吐が 22 カ所と、水路内の水を抜くための放水口が 10 カ所設けられている。安全を手にするには、これ以上というボーダーラインはなく、二重、三重のチェック機構が必要だが、これで万全という安全装置はどこにもない。だからこそ毎日行われる水路巡視が重要となる。

4. 豊川用水の役割

豊川用水は農業用水、水道用水ならびに工業用水を安定的に供給し、この地域の発展に大きく貢献してきた。現在では、この地域になくてはならない重要な施



写真-1 東部幹線水路

設になっている。

(1) 農業用水 豊川用水通水後、本地域では温暖気候と都市近郊地帯としての立地条件に恵まれ、ハウスなどの施設園芸が大幅に増加している。また、露地畑については、サツマイモや麦中心の作物から野菜や果物中心の作物に大きく変化している。

(2) 水道用水 1970(昭和 45)年に豊橋市を含む 3 市 2 町の 42 万人であった給水人口は、2008(平成 20)年度には 76 万人に増加している。豊川用水の水(原水)は、浄水場で飲み水に処理され、各家庭に供給されている。

(3) 工業用水 豊橋港を中心とする愛知県東三河地域および静岡県湖西地域には、製鋼、食料品、輸送機械などの企業が進出している。豊川用水の水(原水)は、浄水場で工業用水に処理され約 80 の事業所に供給されている。

5. 最後に

この原稿を執筆するに当たり心に残った言葉がある。「あることを知ろうとするとき、まず、その歴史を紐解くこと。そこには多くの真実が隠され、そして未来への展望が意図されている」である。私の今後の糧にしたいと思う。

また、資料を提供いただいた豊川用水事業部の皆様には、心温まる対応をしていただいた。この場を借りてお礼申し上げる。

参 考 文 献

- 1) 水資源機構豊川用水総合事業部：豊川用水概要書(2014)
- 2) 豊川用水通水 25 周年祭実行委員会：水の流れとともに 25 年 豊川用水(1992)